

み光のもと

第328号2022年

令和4年4月30日

法福寺 宗玄寺

若葉が美しく目にやさしい季節になりました。

田に水が張られ、緑が映り、広々とした田園の風景です。

もうすぐおたまじゃくしが泳ぎ回りますよ。小川はメダカが泳いでいます。産卵も始めました。

5月 6月 の ご 案内

法福寺	宗玄寺
5/27(金) お逮夜法要 19:30	5/8(日) 花祭り法要 14:00
6/27(月) お逮夜法要 19:30	5/28(土) ご命日の集い 19:30
	6/28(火) ご命日の集い 19:30

花祭り法要 5/8(日)

お餅の注文は古市、小餅 1 升 50 個ナイロン袋入り大福堂へ

TEL 0120-010453

早めに注文しましょう。

お菓子は油井

当日の準備は 9 時からです。役員、年行事さんお願いします。

年行事は、油井、酒井利孝、酒井吉一さん

古市、藤田勝、西山、梅崎大輔、勝岡正博さん
です。

花折は 松本博道さん、井口昌さん、酒井富美子さん、藤田宣彦さん
西山仁美さん、藤本とし子さんです。家族の方お参り下さい。
家族の方は前列にお座りください。

お参りの方は感染予防をしてお越し下さい。

住職 50 年

住職になって 50 年が経過した。毎年本山では 50 年の記念式典が行われ、全国から該当者が招かれる。今年は 47 名中 44 名の方たちが上山されていた。住職は 20 歳にならないと任命されないから、みなさんいずれも 70 歳以上の方ばかりで、中には足腰に衰えが見え始めた方もおられるから、本山の職員は至れり尽くせりでサポートをされていた。

「媚茶色地古代白茶色小葵七宝七弁牡丹白畳袈裟俱威儀」というとんでもない長い名前の記念輪袈裟を頂き、随行者と共に大寝殿で京料理の「お斎」を頂戴した。

「住職 50 年」と一口で言うが、若くして親と離れ、右も左も判らぬままに住職という仕事を始めた方ばかりで、「親の七光り」などを被ることはなかったという。本山の偉いさんもそのことはよく判っているのであろう、「長い間ご苦労様でした」との労いの言葉があった。

今年はまた、50 年間滞りなく本山の懇志を納入したということでも感謝状と記念品が届いた。これは偏にご門徒さんの「おはたらき」以外の何物でもない。

ここ 2 年ほどは、何やかと表彰されることが多かった。そんな歳になっていたのだった。因みに住職の資格を取る学校へ行っていれば簡単？だったが、そうではなく「一般試験」で資格を取得するのは並大抵のことではなかった。ふと気がついたら、丹波 3 組の住職の中では最年長者になっていた。(住職)

78 歳を迎えた住職頑張ってます

4 年前大手術を受けてから、変わりました。悪いとこをとれば元気になるんでしょうね？以前は法要が終わると疲れたと布団に・・・

昼前に訪問者が、住職起きてるか？と たずねていた。朝食はまったく食べない。牛乳は、牛を育てる乳やと飲んでなかった。とにかく布団がすきで布団の上で工作をしたり？法話はもうあかん、次はあえるかな？そんな弱音をはいてました。が術後の念頭の挨拶どうり、この世に生まれ出るのは一度だけ。折角人間に生まれたのだから、物事をかんがえ、知る楽しみを持って生きよう。残りの時間を素敵に輝かそうではないかのむすびの言葉どうりの毎日。朝食もしっかり、牛乳も、次々実行最近では、ペンキ塗り、木を伐る、ペースケの点滴を 8 月から毎日自分でやった。驚くばかりだ。

手枕の好きなペースケに腕をかすなでなでし共に落ち行く眠り

ペースケは飲まず食わずの日の続くふらつく足で茶会覗きに

とめどなく頬つたう涙拭きもせずペースケ終命桜散る頃

つやこ